

幼児教育における鍵盤ハーモニカ指導教材の考察

Consideration of teaching materials for keyboard harmonica in early childhood education

Kurashiki Sakuyo University The Faculty of Childhood Education

居川 寛子
Hiroko IKAWA

キーワード：鍵盤ハーモニカ、幼児教育、幼児音楽教材

I. はじめに

はじめに、この研究報告は、文部科学省 地（知）の拠点大学による地方創生推進事業「文化産業都市倉敷の未来を拓く若衆育成と大学連携モデル創出事業」における、「教育」分野での活動報告である。

幼児期における保育所や幼稚園等での音楽教育では、主に『歌唱・簡易楽器による器楽演奏・音楽鑑賞』などが頻繁に実施されている。これらの音楽教育では保育者の指導力や音楽表現力の影響が大きく、また対象児の楽器経験の有無によって指導の在り方を変化させていく必要があるなど保育者の演奏指導技術が問われる現状がある。

歌唱や器楽、合奏、鑑賞の教材として、主に季節や園の行事に関係する楽曲が取り上げられることが多く、その中でも特に器楽（鍵盤楽器）の指導では指導者の知識や技術、指導のアプローチや教材研究が必要である。また、島寄洋一（1986）は、日常の保育活動の中では保育視点からの指導が多くなる傾向が有り、逆に音楽の専門的なアプローチからの指導は少ないと報告している。

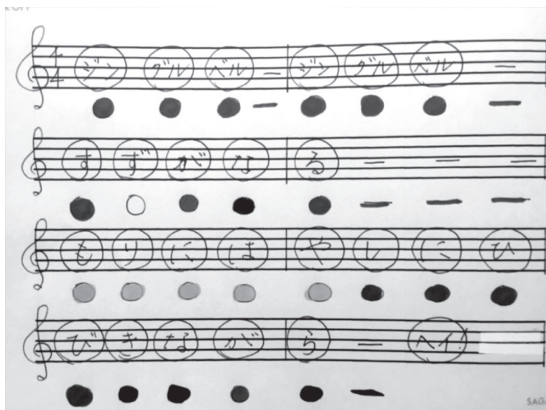
そこで本稿では、保育者からの視点と音楽専門的視点の両方からの教材研究及び開発を目的とした。

II. 教材作成方法及び演奏指導方法

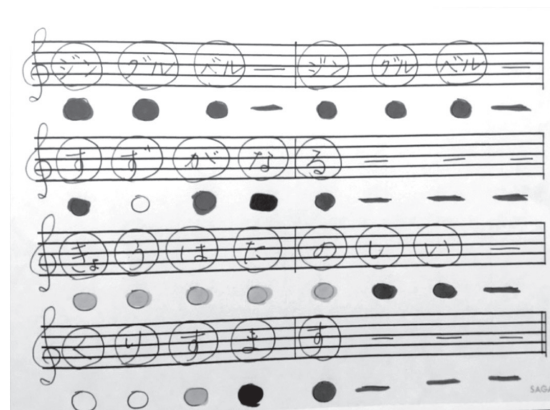
1. 教材作成方法

1) 教材の採用方法について

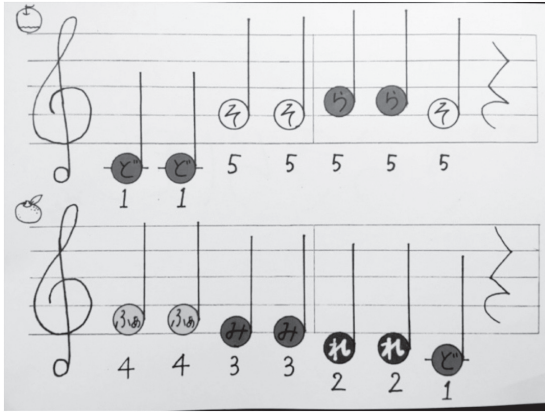
教材については、音楽学部の学生（平成27年度；6名、平成28年度；7名）と保育士（1名）らが一緒に検討した教材（楽曲）を採用した。平成27年度は「ジングル・ベル」〔写真〕1、2）を採用し、平成28年度は「きらきらぼし」〔写真3、写真4）を採用した。手作りの楽譜を園児一人一人のために作成・準備した。平成28年度からは、子ども教育学部の学生（5名）も教材作成に加わった。



(写真) 1 ジングルベル (前半8小節)



(写真) 2 ジングルベル (後半8小節)



(写真) 3 きらきらぼし (前半4小節)

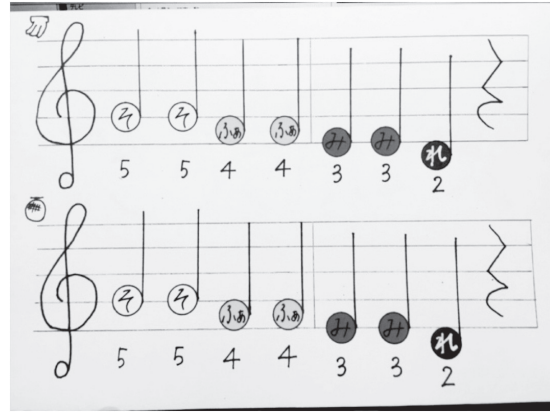


図 (写真) 4 きらきらぼし (後半4小節)

2) 教材の作成方法について

平成27年度に採用した「ジングル・ベル」(〔写真〕1、2)では、対象園児の鍵盤楽器に対する演奏経験の有無を考慮することに重点を置いて作成した。その作成手順を以下に示す。

- ①Y園で使用されている音名が色分けされた鍵盤ハーモニカ(〔写真〕5)に基づき、園児が演奏時に使用する楽譜上で鍵盤位置と歌詞が合致するよう楽譜を作成(〔写真〕1、2)。

【作成上の留意点】

ここでは、歌詞を優先するよりも音名と色分けシールの合致を検討したが、歌詞の方が運指と鍵盤上の位置が連動しやすいことから、音名を除外し歌詞と色分けシールのみで構成された楽譜を作成した。

- ②歌詞の下に色分けシールを示し、また、歌詞は一拍を一つの○でまとめて示すことで、拍の理解と拍子を意識づけることができるよう工夫した。

平成28年度に採用した「きらきらぼし」(〔写真〕3、4)では、平成27年度からの改善点として視覚的効果の工夫を取り入れた。

- ①Y園で使用されている鍵盤ハーモニカ(〔写真〕5)の鍵盤上に書かれている音名と、音名を示す色分けシールが連動するよう楽譜上に示す。
- ②園児が演奏する鍵盤上の音と音名、色分けシールが視覚的に理解できるよう、楽譜上の音符に色分けシールの色を塗る。
- ③楽譜上の音符の中に音名が分かるよう記入。
- ④円滑な演奏が目指せるよう、運指番号を音符の下に示す。楽典的視点から楽譜の在り方として音符も示し、園児が音楽活動で後に活用できることも教材研究目的の1つとして盛り込む。

2. 演奏指導方法

1) 対象

岡山県倉敷市内の社会福祉法人祥陽会よしうら保育園(以後Y園)5歳児クラスを対象に器楽指導を行った。平成27年度は5歳児25名であり、平成28年度は5歳児19名であった。

2) 参加した学生

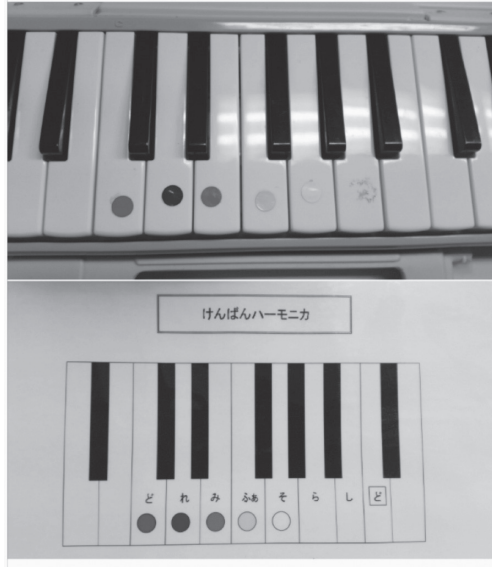
平成27年度は、本学の講義である『実務基礎Ⅶ(ピアノ指導者講座)』を履修しているくらしき作陽大学音楽学部の学生らが参加した。平成28年度からは、上記の学生に加えて本学の講義である『ピアノ演習』を履修しているくらしき作陽大学子ども教育学部の学生らが参加した。

3) 指導時期

平成27年11月10日、平成28年11月8日の2回、60分プログラムで演奏指導を実施した。

4) 使用楽器について

使用した楽器については、園児らはY園で使用している鍵盤ハーモニカ（〔写真〕5）を使用し、指導に参加した学生らは持参した鍵盤ハーモニカとY園のアップライトピアノを使用した。



(写真) 5 園児らが使用した鍵盤ハーモニカ

5) 指導者の役割分担及び指導体制について

指導に参加した学生の役割分担について示す。平成27年度は音楽学部の学生ら6名が指導者として参加した。平成28年度からは、音楽学部の学生ら7名が指導者となり、加えて、子ども教育学部の学生ら5名が演奏をサポートする支援員として参加した。

(写真) 6、7に示すように、対象園児を5人1グループ、全5グループに分けて指導した。指導者はプログラム全体の統括指導者1名（音楽学部の学生）、その他の学生は各グループのグループ指導者（音楽学部の学生）として参加した。サポートに入った子ども教育学部の学生らは、演奏指導に支援を要する園児のサポートを行った。



(写真) 6 平成27年度の指導風景



(写真) 7 平成28年度の指導風景

Ⅲ. 実践

Y園では通常の保育活動でも鍵盤ハーモニカ（〔写真〕5）を使用しており、12月の「クリスマスコンサート」で園児の演奏披露が継続して行われている。そのコンサートに向けての保育活動の中で演奏準備が進められている。

1. 指導準備について

本稿で取り上げる5歳児のクラスでは、平成27年度には「ジングルベル」を演奏指導し、平成28年度には「きらきらぼし」の演奏指導を実施した。

はじめに、鍵盤ハーモニカの使用方法に関する説明を実施した。具体的には、楽器の各名称、楽器の持ち方、鍵盤上での運指方法、ホースでの息継ぎ方法等を説明した。この息継ぎ方法の説明には、教材曲のメロディーの流れと小節箇所での区切るまとまりを把握する意図も含まれるため、鍵盤とホースを離れた状態で息のみを「フー、フー」と教材曲のテンポに合わせて試し、息継ぎ箇所について体験させながら説明するように配慮した。

2. 教材の工夫について

平成27、28年度共に、全体の統括指導者が教室前方にあるホワイトボード掲示の大きな楽譜と各園児に配布してある楽譜内容を確認した。その際に、（写真）1に示すよう教材を活用しながら鍵盤ハーモニカ上の音名と楽譜上の音名を示した。音名を示す色分けシールの位置を園児に確認させる目的は、鍵盤上に色のシールを貼ることで、園児が視覚的に音名と鍵盤の位置を捉えることを可能にするためである。

また、「ジングルベル」を演奏する際、園児が楽譜上でどの箇所を演奏しているか確認できるよう、小節の見方、（写真）1、2に示すような楽譜を活用して楽譜を目で追う順番を説明した。さらに、「きらきらぼし」は繰り返し演奏する小節があるため、（写真）3、4の示すように果物の記号を楽譜上に記すことで目で追いつける箇所に関して分かりやすく工夫した。

3. 演奏指導実践について

平成28年度の演奏指導実践は、以下に示す①から⑦の手順で実施した。

- ①平成27年度は歌詞を優先していることから、先ず統括指導者が鍵盤ハーモニカ上で運指を園児にモデルを示すために演奏した（この時、グループ担当指導者は歌詞を歌唱）。
- ②基本となる運指である「ドは親指」「レは人差し指」「ミは中指」「ファは薬指」「ソは小指」を確認した。平成28年度では「ラ」の音があるが、運指に関して「くぐり指」や「またぎ指」の奏法は時間的な習得が難しいため、「ラも小指」であることを説明した。これらの練習は運指練習のみとし、音出しはしないよう配慮した。
- ③ホースを鍵盤ハーモニカにつなぎ、演奏させた。平成27、28年度共に、1小節を3回ほど連続して演奏させた。この時に指導上留意すべき点は、既習曲であることから鍵盤位置の感覚で演奏する可能性があるため、指導者は鍵盤上の色分けシールと楽譜での位置の両方を示しながら指導するよう配慮した。
- ④③から2小節ずつ増やし、復習と共に曲の流れを意識づけた。この時も譜面の箇所を指導者は示すと共に、音名について、休符＝休む箇所（弾かない場所）ということを楽譜上で確認及び休符の際の指の動きも確認するようになった。
- ⑤③、④と2小節ずつ増やしていき、前半8小節まできたところで、2回繰り返して演奏するよう指導した。この意図は、各園児に前半8小節の読譜がどの程度でできるようになったかを確認させるためである。
- ⑥再び③、④を繰り返した。
- ⑦後半8小節を運指練習のみ実施させた。

- ⑧後半8小節の演奏を実施させた。
- ⑨全体の16小節の演奏を実施させた。
- ⑩教材曲を歌唱するよう指導した。歌唱することで、音楽的表現を意識づけると共にメロディーの流れや息継ぎを歌唱でも確認できる。また、本来の目的である楽譜上の音符の長さや歌詞、音名が連動していくことを意識させるよう指導した。
- ⑪曲の前半部分を楽譜を見ながら音名で歌唱させた（演奏はしない）。その後、曲全体を演奏させた。この時、指導者は楽譜上の音名を指で示すことをあえて控え、園児自らの読譜力向上を体感させた。さらに、演奏が困難な園児がいた場合には、適宜サポートするよう配慮した。

IV. 結果及び考察

ここでは指導と一緒に参加した学生及び保育士からの意見に基づき、今後の器楽鍵盤教材と演奏指導についての考察を示す。

1. 時間的制約について

現在の保育現場における鍵盤ハーモニカ指導の現状は、楽譜の読み取り指導に関して保育者の口頭説明に依存する傾向が窺われる。この口頭説明は主に、歌詞を示す音が鍵盤上でどの場所にあたるかを合致させるための説明であり、楽譜と連動していることは少ない。その理由として、保育士は「保育活動時間内での楽譜と演奏の連動した指導には時間的限界がある」という意見を述べている。それに対して音楽学部の学生からは「音名を音符と色で連動させる指導は、短時間で実施することが可能であり、園児たちの音楽専門的な知識と技術の向上は得られた」という意見を言及している。筆者自身、学生の演奏指導を監督する立場で参加し演奏指導を見守ったが、その際に筆者を含む本学教員2名も学生と同様の意見を感じた。よって、音名を音符と色で連動させる指導は短時間で実施することが可能であると推測する。

2. 視覚的効果を取り入れた演奏指導について

教材研究にあたり、平成27年度では音楽学部の学生が園児に対して、演奏技術習得を主とした視点から楽譜製作をした。しかし、園児の発達特性に応じた理解が足りていないことから、教材への視覚的効果の配慮が足りず、技術習得が主な目的となる指導となった。その結果、保育士からの意見として「園児たちに分かりやすく、園児が一人で楽譜を見ながら演奏できる楽譜の教材に改善してほしい」という趣旨の意見が得られた。そこで平成28年度からは、子ども教育学部の学生も本活動に参加して、園児の発達特性に応じた視点から演奏技術習得とソルフェージュ要素を視覚的効果の高い教材で演奏技術を習得できるよう検討改善した。具体的には、「音符、音名、色分けシール、運指」の4つの要素を瞬時に簡略化された状態で楽譜上に示すことで園児が視覚的に理解できる教材研究を実施した。

V. まとめと課題

以上のことから、音楽学部の学生の音楽知識及び技術と子ども教育学部の学生の園児の発達特性への着眼点に関する知識が融合することで、保育園における演奏指導は園児にとってより分かりやすい指導になった。また、保育士にとっても限られた保育時間内で指導可能な音楽活動を展開することに繋がると思われる。

最後に本研究の課題について示す。演奏指導に参加したある子ども教育学部の学生はから「音符、音名、色分けシール、運指と4項目に視点を置いた（平成28年度より）。しかし、園児によっては着眼点が多すぎて、どの項目に着目して演奏すればいいのか戸惑う様子が見受けられた」という意見が述べられた。この意見を参考に、今後は園児の着目点を3項目に減らすなどして、より園児にとって分かりやすい教材開発及び演奏指導を検討する必要があると考える。また、指導の頻度が年に一度という頻度であったことから、指導効果の定着を疑問視する意見も出ていることから、今後は園と相談

しながら指導頻度を上げていくことも検討しなければならない。

謝辞

今回の研究実践においてご協力いただいた社会福祉法人祥陽会よろ保育園園長出口太朗先生をはじめ、園児や保育士の先生方々に貴重な研鑽の機会をいただき、深く感謝申し上げます。また、文章作成、構成にご協力いただいた作陽音楽短期大学 松田真正先生に御礼申し上げます。

参考文献

- 1) エドナ メイ バーナム. 中村菊子解説. やさしいメソッド バーナム ピアノ教本1. 全音楽譜出版社
- 2) 加藤あや子 長谷川恵理「幼児期における鍵盤楽器の使用に関する若干の考察」—使用開始時期とその糸に焦点を当てて—大阪教育大学紀要論文36、23-42、2016
- 3) 加山佳美. らくらく指導たのしいリトミック&リズムあそび. 株式会社シンコーミュージックエンタテイメント
- 4) 島寄洋一「鍵盤ハーモニカの特質と幼児への指導法」大垣女子短期大学研究紀要 24、46-65、1986
- 5) 大学音楽教育研究グループ. 改訂 大学・教職課程のための バイエルと教材研究 Cより始める指導の新体系. 株式会社教育芸術者
- 6) ピアノ講師ラボ：現場の先生直伝 生徒が夢中になる！ピアノレッスンアイデアBOOK. 株式会社ヤマハミュージックメディア
- 7) 平澤節子「保育現場における器楽指導について」：鍵盤ハーモニカ指導に関する一考察 上田女子短期大学幼児教育学科保育者養成年報 2008